

協働
連携

市民と行政、大人と子ども、 さまざまな協働によりツルを誘致！ ～ツルの自然体験学習会～

次世代のツル類の守り手を育成するため、平成18年度から毎年夏と秋に行っている学習会を今年度も実施しました。

企画・運営は、当会の会員と国土交通省中村河川国道事務所の皆さん。そして、ツル類の越冬地整備の戦力となってくれたのは、四万十市立東中筋小学校の6年生と東中筋中学校の1年生。さまざまな人たちの力が結集し、「ツルの里づくり」が行われています。

夏の
学習会
6月28日

子どもたちは、中学校の教室で国土交通省の四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)などについて学んだ後、平成25年度にマナヅルが越冬した湿地で、ツルが飛来してきた時の餌となるよう田植えを行いました。秋に実った稲を食べるツルの姿を思い浮かべ、田んぼの泥に足をとられ悪戦苦闘しながらも、汗を流してくれました。



ツルの学習

国土交通省が中山箇所を整備した湿地で行った田植え(えさ場づくり)

秋の
学習会
11月2日

教室でのツルの学習後、当会が長年えさ場づくりを続けている江ノ村箇所の水田に移動し、ツルを呼び寄せるための模型「デコイ」の設置、田んぼの畦の草刈りと啓発看板の清掃などを行いました。また、用水路にトンボのヤゴやカワムツなどの魚が生息しているかを調べ、江ノ村箇所に豊かな自然環境が再生していることを学びました。



「デコイ」の設置

ツルが周囲を見渡せるよう田んぼの畦の草を刈る中学生

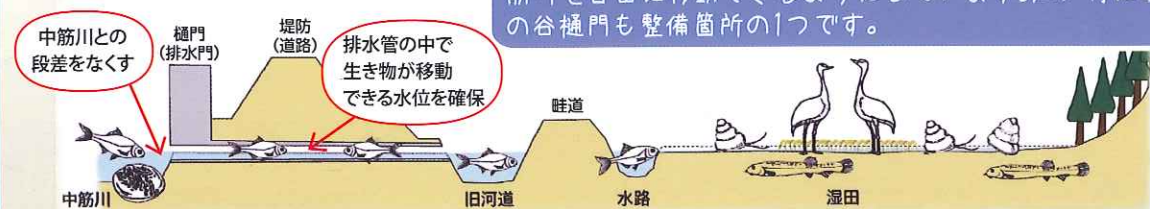
「ツルの里」の看板を磨く小学生

用水路の生き物観察



Q. 江ノ村の用水路に生き物がたくさんいましたが、それが「ツルの里づくり」とどう関係するのですか？

▼「河川の連続性の確保(樋門の段差解消)」整備イメージ



ツルは、イネの落穂や二番穂を餌としている様子がよく確認されますが、雑食性で、小魚や貝、土の中の昆虫、植物の種子等も食べるといわれています。
「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」では、湿地再生のほか、小川や水路が中筋川に流れ込む場所にある樋門の段差をなくし、ツルの餌となる小魚などが水田地帯の水路と中筋川を自由に移動できるようにしています。江ノ村にある西の谷樋門も整備箇所の1つです。



A. 国土交通省
中村河川国道事務所

ツルを見る時の
お願い



ツルは非常に警戒心が強い鳥ですので、200～300m離れた場所から双眼鏡などを使って観察して下さい。写真撮影は望遠レンズを使いましょう。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp

四万十
つるだより



四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.24 ●発行日/平成31年1月28日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.nakamura-cci.or.jp/doc/tsuru/>

※本誌掲載のツル類の写真は、長年四万十市に飛来したツル類の保護にご尽力されていた故 澤田佳良先生、当会会員の夕郎眞一氏他、また国土交通省中村河川国道事務所からご提供いただいたものです。

7羽のマナヅルが四万十市で越冬しました！

今年度は、平成30年10月29日にナベヅル1羽が飛来したのを皮切りに、最大で109羽のツル類が四万十市に飛来しました。残念ながらナベヅルは12月中旬にいなくなりましたが、マナヅル7羽が越冬しました(1月18日現在)。当地では、昨年度にもナベヅル等5羽が越冬しており、平成になって初めての2年連続の越冬となります。

越冬したマナヅルは、昨年11月1日確認された4羽に、翌日の11月2日に3羽が合流したもので、以降、7羽で仲良く水田で餌をついばんでいます。ツルは警戒心が強いので、北に帰る2月～3月頃まで、近寄らず静かに見守ってください。

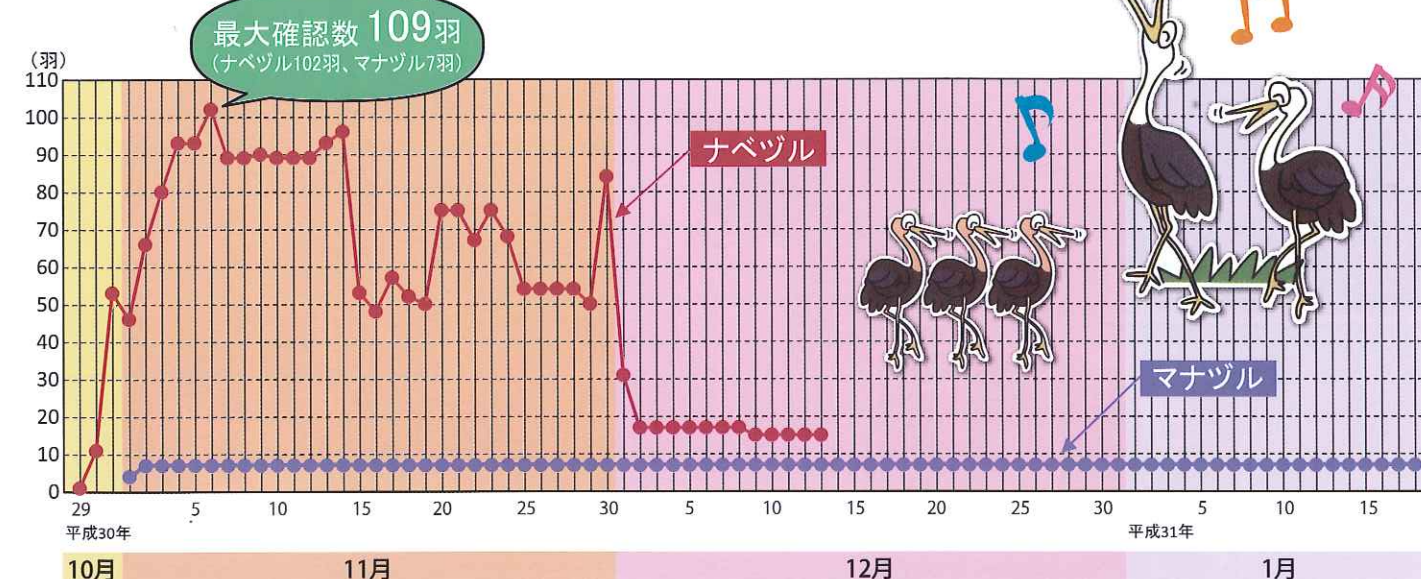


越冬した7羽



マナヅル

ナベヅル



四万十市に降り立ったツル類の数(1月18日現在の速報値)

注)飛来状況は、当会と高知野鳥の会、国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所が連携して調査しています(11月19日、29日は推定値)。